

いも類と俳句 1

— 季語「いも（芋）」について —

編集部

・ 師の芋に服さぬ弟子の南瓜かな

平川へき

・ 諸畑にただ秋風と潮騒と

山本健吉

広辞苑では「いも（芋、諸、薯）」は、サトイモ・ツクネイモ・ヤマノイモ・ジャガイモ・サツマイモなどの総称とある。しかし、歳時記によると、俳句で単に「いも」と言えば「芋」のことで、里芋を指し、馬鈴薯や甘藷の「薯や諸（いも）」ではないとある。ためしに詩人・清水哲男氏の「増殖する俳句歳時記」<http://www.longtail.co.jp/~fmmitaka/kigo.html>の「秋」で調べると馬鈴薯、甘藷—薩摩芋、芋—芋畑、芋茎の季語が掲載され、芋や芋茎は里芋をいうようである。松尾芭蕉の没年は元禄10年（1694）、青木昆陽の「蕃薯考」上書は享保19年（1734）であり、俳聖・芭蕉の作品には諸（薩摩芋）は出なかったようだ。しかし、悔しいので「芋—芋畑」を開けると揚句が混じっていた。第1句（平川へき）は「ああ言えばこう言う。師の言うことにことごとく反抗する弟子の様子である」と解されているが、そのような骨太の学生を一人は持ちたかったとの思いもある。作者・平山は秋田の人なので、芋は約束どおりに里芋だろうが、NHK朝ドラ「芋たこなんきん」を見た身には、ひいき目にも芋＝薩摩芋と見たい。第2句（山本健吉）には大串章の評があり、揚句が島原・原城址での作品、かつ健吉が長崎県出身ということで、この諸畑は薩摩芋畑で間違いなかろう。島原に広がる原風景が彷彿とされる良句であり、またこのような風景がいつまでも残ってほしいとも思う。

編集後記

1984年に1号が、それから24年、本年1月までに94号が発刊されました。その一貫した体裁と内容を、理事会の意向及び編集部、印刷所の変更にともない、本号から一部変更しました。また、冊子の発行だけでなく、電子版も発行することにしました。旧来同様のご厚意とご鞭撻を頂きますとともに、ホームページ（構築中）を通しての意見や提言をお寄せ頂けますことを期待しています。

いも類振興情報 第95号 発行 財団法人 いも類振興会

平成20年4月15日発行

〒107-0052 東京都港区赤坂6-10-41 ヴィップ赤坂303号
TEL03-3588-1040 FAX 03-3588-1225 E-mail: imoshin@fancy.ocn.ne.jp
振替 00130-1-110152
印刷 株式会社丸井工文社